

モニタリングシート（音楽教育学専攻）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。	・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策	DP 項目とカリキュラムの連関を意識したカリキュラムマップ作成を目指している。フィードバックの仕方や成績評価基準に関する共有化への取り組みを検討・実施している。学生の学修環境の整備に適宜対応している。持続可能な FD 研修を検討・実施している。	DP の各項目がうまくカリキュラムマップに配置されておらず、まだ偏りが見られる。成績評価基準の共有が充分にできていない。改組に伴う開講科目の精査やクラス数、担当領域の変化への対応が難しい。	体系的な履修を促す科目編成に関して、カリキュラムマップへの反映と学生への浸透の深化のための具体的かつ継続的な検討を実施する。
2	経年でみた志願者動向はどのような状況か。	・各種入試結果（入試区分別・高校ランク等）	いずれの入試区分においても、2023 年度の志願者数の落ち込みが目立った。一方で入学者の高校ランクをみると、3 から 16 の間にはほぼ一人ずつ均等な分布となっており、経年でみても大きな偏りは生じていないことが確認できる。	左記の状況から分かることは、課題は受験生の能力資質の低下ではなく、志願者数の低下にある。	従来ターゲット層のみならず、これまでターゲットとはなっていなかった高校・生徒にも広報を徹底し、志願者数を増やす工夫が必要となる。
3	経年でみた新入生の動向はどのような状況か。	・新入生アンケート（第一志望・選択理由・本学への期待等）	少人数ゼミ、専門科目（実技科目を含む）、資格取得への期待が大きいという傾向は、過去三年で大きな変化がない。	入学前に授業内容が知りたいというニーズが高まっている。また、音楽の学生は、入学前のイベント（OC）参加率が突出して多い（2023 年 93.3%）ことも加味すると、入学前イベント（専攻での教育内容の周知等）の充実が課題といえる。	改組によって、学生から期待されている専門科目が減ってしまうことは、来年度以降の受験生から見てマイナスになり得る。今後は、OC、高校訪問、夏期実技講習会、HP などで、改組後も音楽のカリキュラムが充実していることを示す必要がある。
4	入学者選抜が入学者受け入れの方針（AP）で求める学生を適切に選抜するものとなっているか。	・選抜機能評価（各入試方式とその後の GPA/単位修得状況/留年・中退状況との関係） ・ジェネリックスキル測定テスト（1 回生） ・新入生アンケート	各入試区分において、大きな差異（特徴）は見られない。AP の文言「音楽に強い興味と関心とを抱き、関連する教科の学びを実質的に修得」と、直近 3 年で入学者が期待している「専門的な知識が身に付く」という事項は合致していると言えるため、AP に沿った学生が確保できていると考えられる。	改組によって入学者の傾向やニーズが大きく変化することが予想されるが、まずは、新学科体制初となる今年度の入試における経年変化を注視していく必要がある。	改組後は入学者の傾向やニーズが大きく変化することが予想されるが、まずは、新学科体制初となる今年度の入試を、AP に沿って適切に実施できるよう、十分な協議の上で運営する必要がある。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
5	DP・CP と関連したカリキュラムが各学位プログラムレベルで適切に設計されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップの状況 ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験） 	昨年度、カリキュラムマップの状況を見直し、各授業の学修の実態に即したマップの整備を行った。そのことにより、全体のバランスは良くなってきたが、引き続き、アンケート結果等を精査しながら、各授業の実態を鑑みた CP と DP の関連を意識していく。	カリキュラムマップの見直しは行ったが、未だ学位プログラム全体における DP 配分には偏りが見られる。DP の見直しは、専攻のみならず学科単位としても喫緊の課題である。	今後改組に伴い変更となる、DP・CP の見直しに加え、現カリキュラムでの DP・CP の関連における検討も継続的に行う。
6	カリキュラム・授業は、適切に運営されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験） ・最低修業年限卒業率 	授業アンケートや卒業時アンケートから見られる本専攻の授業内容、学位プログラムに対する評価は極めて高い。カリキュラム・ポリシーに明記された専門領域における段階的・体系的な教育課程編成の方針は、様々な能力の涵養に繋がっている。	多様化する音楽教育の現場における実態の把握とその対応について、継続的な FD 活動によって、各教員がより一層理解を深めていく必要があると考えられる。	改組によりカリキュラムが改訂されるが、音楽探究プログラムの履修者や中・高音楽免許取得を目指す学生に対して、これまでと同様、音楽に対する深い学びを提供する必要がある。
7	DP にもとづく学修成果の到達度の状況。	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックスキル測定テスト（3 回生） ・ALCS 学修行動比較調査（修得度） ・卒業時アンケート（修得度） ・進路・就職結果データ ・免許・資格取得状況 	教育内容に対する学生の「満足度」については、継続的に、概ね良好な回答が得られている。また、DP において目指される能力については、「リテラシー平均成長度」における「情報収集力」、「コンピテンシー平均成長度」における「対課題基力」などに、良好な結果が継続している。	教員養成を主眼とする本専攻において、「リテラシー平均成長度」「コンピテンシー平均性丁度」の統計において、「協働力」が著しく低い点が第一の課題と考えられる。また、「言語処理能力」の低傾向に関しては、音楽を中心とした学修カリキュラムとの関連について今後検討すべき課題であると考えられる。	本専攻生へ、DP に掲げられた能力・スキルの意義について理解を促し、それらの向上への意識を高める具体的な働きかけについて検討をしていく。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
8	進路・就職及び免許・資格取得状況。	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックスキル測定テスト（3回生） ・ALCS学修行動比較調査（修得度） ・卒業時アンケート（修得度） ・進路・就職結果データ ・免許・資格取得状況 	一般企業へ就職する学生と、教員になる学生が2022年度はほぼ同数であった。2019年以降、毎年、教員の方がやや多い。また2022年度は本学大学院へ6名と過去最多進学しているが、他大学大学院へ進学する学生もほぼ毎年いる。教員になる学生は、複数の免許を取っている場合が多い。	毎年、一般企業に就職する学生が半数近くいるため、その対策が専攻内でもできると良いであろう。教員になる場合、中高の教員枠があまりないこともあり、小学校、幼稚園の免許も取る人が多いことから、専攻において、教員採用試験への更にきめ細やかな対策が求められる。	今回の改組で新学部が目指そうとしている一般企業への就職も視野に入れつつ、中高の音楽科教員免許と同時に幼稚園・小学校等、複数の教員免許を取得するという点については、既に本専攻の多くの学生がこれまで行ってきていた。新学科においても同じような方向性を探っていくべき。
9	各科目の成績および卒業論文・研究が適切に評価されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績分布 ・卒業論文・研究の判定結果 	各科目の成績分布で、平均得点や評価分布を見ると、科目や担当教員によってかなりばらつきがあるが、科目の性質や授業の進め方等の違いにより仕方ない面もあると思われる。卒業論文・研究の不合格者は過去5年間で1名のみであり、全学的に見て非常に少ない。特に問題は無いと考えられる。	成績評価のばらつきについては、なぜそうなっているのか、もう少し詳細に検証する必要がある。実技における卒業試験の審査を専攻内教員全員で行い、優秀卒業論文についても全員で選考を行っている中で、卒業研究の評価に関して、実技の達成レベル、論理的思考力、構成力、努力とその成果については把握できていると思われる。音楽教育学専攻の学生がいる2026年度まで、この体制を継続したい。	専攻内の他の教員が行っている授業内容、成績の付け方について、情報共有や意見交換をすることはほぼなく、それらを詳しく知る機会がないので、成績分布の偏り等については把握しづらい。但し、過干渉も決して良いとは言えないことから、一人ひとりが教育責任を果たしていることに敬意を持ちつつ、有意義な情報や意見の交換ができれば理想的である。
10	職位・年齢のバランス、非常勤比率に留意し、かつ、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率 	教員の年齢、性別バランスについては特に偏りはなく、カリキュラムや学修成果にとって大きな問題となる点は見られない。非常勤率は昨年度と比較して減らすことができたが、今後も引き続き、カリキュラムと学修成果、より良い教員構成のモニタリングを継続して行っていきたい。	音楽科目の特性上、他学科・他専攻と比較して非常勤率はまだ高い状況ではあるが、改組を機にカリキュラムが見直されたことにより、年々更に減少していくと考えられる。	次年度改組を機にカリキュラムが大幅に変わるため（統合・スリム化）、音楽関連科目の非常勤率は大幅に減少する方向に進んでいる。今後、教員構成（職位）を更にバランスよくするため、中長期的な視点での教員採用計画が求められる。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
11	学科個別のFDについて、課題認識および今後の方向性、外部環境を踏まえたFDを実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの取り組み状況 ・前年度点検シート ・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策 	中・高の音楽科教員の養成を主眼とする本専攻では、現在の教育現場で重要と見做しうる課題をテーマに、研修の機会を設けてきた。昨年度は「ホワイトハンドコーラス NIPPON」の芸術監督を招聘して講演会を開催し、障がい者が学校等において健常者と交流しながら文化芸術を鑑賞、創造、発表することができる環境づくりについて考えた。	対象のテーマについて、個々の教員の知見が得られる点において、FD活動の成果が認められるものの、その知見を学生への教育へ、どのように還元していくのかについては、今後の検討課題でもあろう。	今後も引き続き、教育・現場への理解において意義のあるテーマを検討し、専任教員の知見・意識を高める研修の機会を継続的に設けていく。そして、そこで得られたものを、学生へも還元できる方策を検討していく。
12	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項(提案)」があれば入力	<ul style="list-style-type: none"> ・各種データ 	音楽教育学専攻学生の、授業や教員の指導に関する満足度は、他学科・他専攻に比べて極めて高い。専攻における学生数は定員に満たない状況にあるが、少人数だからこそできるきめ細やかな指導を継続して行っていきたい。	旧体制の「専攻単位」と、次年度からの新体制「学科単位」の混在が三年間続くことで、学生や教員に戸惑いや混乱、不公平感が生じる可能性が考えられる。	旧体制と新体制が入り混じり、次年度は専攻単位での募集がなくなるが、最後の回生が卒業するまで、現専攻のポリシーを大切に、魅力ある授業を提供し続け、社会に貢献できる卒業生を送り出したい。